

「通級指導」の制度改革期における都情研が果たすべき役割

東京都公立学校情緒障害教育研究会

狛江市立狛江第三小学校長 渡辺秀貴

新体制でのスタート

四月二十一日、国立オリンピック記念青少年総合センターに於いて、今年度の定期総会が開催されました。大石京子先生の後を引き継ぎ、会長を務めます、狛江市立狛江第三小学校の渡辺秀貴でございます。本会のこれまでの研究成果と会員の先生方の実績を生かし、新たな教育課題の解決に資する研究活動を目指して、副会長をはじめ、幹部の先生方と共に力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

「ご来賓の皆様への期待と激励」
総会では、本会を支えてくださったっておりますたくさんのご来賓から、今年度の取組への期待と激励のお言葉をいただきました。

○平成二十七年度は、東京都の特別支援教室構想実現に向けての重要な年となる。

○本会がこれまで積み上げてきた研究成果を大いに生かし、児童・生徒の教育ニーズに応じた新たな支援体制を構築してほしい。

その際、現在の取組について、次のようなことを意識すべきであるとの示唆もありました。

○個別指導計画は、通常学級の授業における指導に活用できるものになっているか。

○通常学級の教員との協働体制を意識しているか。

本会の顧問の先生方並びに係関係の皆様との情報の共有と、行動連携の必要性を再認識いたしました。あらためて、本会への「指導・ご支援をお願い申し上げます。

特別支援教室モデル事業の成果と課題

まさに今、通常学級で個別の支援を必要としている児童・生徒への指導体制の大きな転換期です。昨年度まで、

掲載内容の紹介

P2 「通級担任の行う通常の学級の具体的支援法」

明星大学 小貫悟先生

特別支援教室モデル事業を受けて三年間取り組んできた狛江市では、この間、通級指導学級に在籍する児童数が倍増しました。各校に特別支援教室が設置されることで、通級指導という支援を容易に受けられるようになることは、児童にとって何よりの環境整備です。

また、巡回方式を実施するに当たり、教員の職務体制やローテーションの組織の仕方、そして何より教員一人一人の指導スキルの向上などの課題も明らかになっていきます。

各自自治体の各校に特別支援教室が設置されることで、通級する児童が著しく増加することが予想されます。その対応策立案に必要な現場情報を適切に提供していくためには、本会の研究活動での情報交流が欠かせません。

モデル事業に取り組んだ四つの自治体の成果と課題を、各地域の実態に照らしながら、今後の取組方針案等を建設的に提案していくことも本会の役割であると考えます。

組織力向上・新しい制度の実効化

組織力向上には設置校長会が屋台骨となり、第一線で指導・研究に当たっている教員がもてる力を発揮できる環

境作りが必至です。大石前会長のリーダーシップの下、平成二十六年途中で本研究会の「あり方検討会」設置の準備を進めていただきました。五年後、十年後を見通した支援体制の大改革期、設置校長の課題意識を集約しながら、今後本会が果たすべき役割や具現化のための体制について検討することも今年度の大きな課題です。

そのためには、今後三回開催予定している「設置校長会」「あり方検討会」における具体的・実効的な議論が重要です。日程・会場は次の通りです。

- ①六月三十日(火) 国立オリンピック記念青少年センター
- ②十一月二十四日(火) 台東区立平成小学校
- ③二月九日(火) 江戸川区立平井南小学校

設置校長の皆様、検討委員となられた先生方の積極的な参加と生産性の高い協議をお願いします。「児童・生徒一人一人の教育ニーズに応じた教育」の実現に向け、会員の先生方の英知を結集して新たな仕組み作りを進めていきたいと考えます。

平成二十七年年度 都情研総会記念講演（抄録）
「通級担任の行う通常の学級の具体的支援法」

明星大学人文学部心理学教授 小貫悟先生

通常学級における社会性の指導について、通級担任がどのように支援していくことができるのか、分かりやすく具体的にお話をしていただきました。誌面に限りがあるため、お話のかんりの部分を割愛せざるを得ず、誠に残念です。それでも、とても示唆に富む内容ですので、最後までお読みいただき、今後の指導に生かしていただければと願っています。
く広報部く

一、問題行動を見るとき視点

我々が子供たちの問題行動を見る時に、ソーシャルスキルというキーワードをもっているかどうかで、見え方が随分違ってきます。

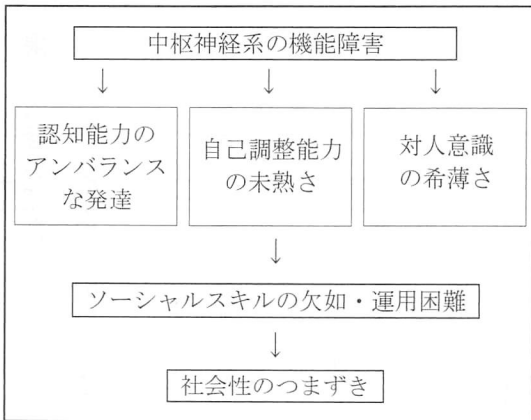
ある小学校中学年の子が、お母さんの財布からお金を抜いて使ってしまった。お母さんは、すぐ叱りました。その子は、本当にいい子で、やっつはいけないことをしたと分かっている、たくさん泣いて、もう二度としないと約束しました。ところが、数ヶ月たってまたやっつしてしまう。今度は、担任の先生にも叱ってもらいました。その子は、もうしない約束しました。ところが数ヶ月してまたやりました。お母さんは、「この子はいくら言っても規範意識が入らない子なんだ。将来は犯罪者になるしかないんじゃないか。」と絶望的な気分で相談にいらつしやいました。話を聞いていく中

で、とったお金はどうするのかと聞いてみたら、お菓子やカードを大量に買って、全部人にあげてしまっていました。この時だけ、この子は友達が多い子になるのです。物をあげて、それで、友達が集まる。

ところが、そんなふうには友達が集まってくる時期は短いのです。そうするとまたやる。この子の問題は、犯罪者になるとか規範意識が入らないとかいう問題ではなくて、ソーシャルスキルの不足、つまり、そんなふうにしなくても、友達がちやんとできるということ覚えていくことでした。このように、ソーシャルスキル不足が潜在的に存在する問題行動に敏感になる必要があります。

発達障害の問題の背景には中枢神経系の機能障害があると推定されています。本人の努力不足でもお母さんの躰不足でも先生方の指導

不足でもありません。認知能力にバランスの悪さ、偏りがあるのです。それから、自己コントロール力の未熟さの問題があります。感情、行動、衝動性のコントロールなどはADHDと言われる子供たちが苦手としているところ。対人意識の希薄さやズレという問題も出てきます。これらのことから、ソーシャルスキルの欠如、運用困難が起こり、社会性のつまずきが見られるようになります。この欠如と運用困難を分けて考えることは、本当に大事です。欠如とはもっていない、運用困難とはもっているけど使えないということ。担任の先生が一生懸命かかわっているのになかなか結果が出ない時は、この欠如と運用困難が混同されている場合が多いです。



欠如の子に対して運用困難として対応し、「なぜ、やらないの。」という指導をしてしまうのです。もつてなかつたら絶対できません。これは、年齢に応じてソーシャルスキルを身に付けているという考え方は、理由があつて、年齢相応じゃない、欠如の状態でここまで来てしまっている子たちがいるのです。

では、ソーシャルスキルは、どうやって獲得していくのか。そのベースになつての発想は成功体験の確保です。成功を伴う体験は身に付くのです。こうするとうまくいくという体験を確保するのが、社会性を育てる原理なのです。

このことが、日常的な事象としてよく見られるのはスポーツの世界です。練習で三回しか成功したことのない技を、メダルがかかっている本番で一か八かやってみる。すると、うまくいつて金メダル、というふうなエピソードはオリンピックの度に出てきます。練習で成功したものは体の中に残るといふ証明です。何百種類もの失敗をしているはずなのに、何月何日の失敗を再現してみてもできない、再現性がないのです。うまくいくという体験だけが体の中に残っていくという原理です。

社会性の指導の一番難しい問題が、身に付けるということ。社会性の指導の一番難しい問題が、身に付けるということ。社会性の指導の一番難しい問題が、身に付けるということ。

身に付いていないソーシャルスキルは使えないのです。例えば、海外旅行に行った時に、その国の挨拶を少し調べただけでは、実際には使えないでしょう。知っているだけでは出てこない。挨拶というのは瞬間的な判断なので、もっているものしか出てこないわけです。知っているだけでなく、自分のものになっているという状態をどうやって作っていくのか。行動理論、学習理論では身に付けるといふ概念を行動が強化されたと言います。ご褒美などの具体的な強化子や褒められるなどの社会的強化子、本人の達成感による自己強化によつて行動は強化されます。

二、社会性を育てる方法論の連結

社会性というものは、体験を通じてしか身に付けられないものです。学齢期の子供たちは学校という社会的場面での体験によつて社会性を身に付けていきます。学校の中で、失敗や成功の体験を毎日ちよつとずつ積み上げていくことで社会性が伸びていくわけです。ところが、たまたま、発達障害の特徴がある子がいたらどうなるか。同じチャンスが与えられても、うまく成功体験の量が確保できない子たちが出てきます。担任としては、成功体験を確保してあげたいと思つていろいろするのだけれど

も、当然その子だけに密着しているわけにはいけません。この子の中の社会的場面での成功を伴う、成就する社会的な体験がやはり不足してしまいます。

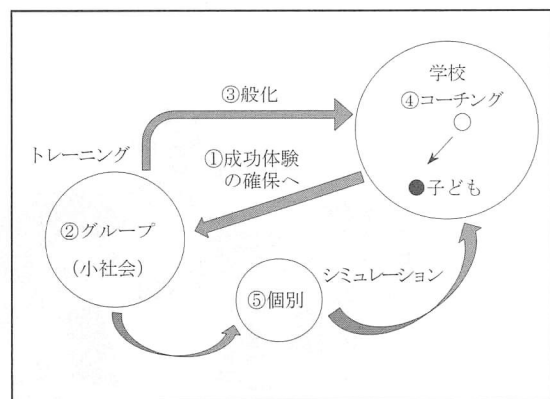
ここで、この子を取り巻く社会的な場面のサイズを小さくしてみたらどうでしょうか。なぜ学校で成功体験がうまく確保できないかというところ、コントロールできない要因が多すぎるからです。状況がどんどん動いていつて、把握しきれない。けれども、小さくすると、コントロールしやすい社会的場面、成功を伴う体験を確保しやすい社会的場面を作ることができるようになります。これが、通級による指導という形に馴染むので、通級では小集団指導という形のソーシャルスキルトレーニング(SST)の方法が使われるようになったのです。

ところが、ここで一つ問題が出てきます。それは、グループでの体験を学校にどう戻すかという事です。これは、行動理論では一般的に般化と言います。グループでできたことが、クラスに戻っていかないと、これは、切り離れたが故に起こってくる、次なる課題です。

「いつになったら学校でうまくいくようになりますか。」という質問に、私は正直に「ソーシャルスキルトレーニングを受けたからといって、在籍級でぐんぐんうまくなっていくようになるわけじゃないですよ。」と答えます。そう言われたら「ソーシャルスキルトレーニングって一体何なんだ。」と思つてもおかしくないです。しかし、例えば相手をきくと見えて情報を的確に伝えるとか、相手の気持ちを考へて言葉を選んで伝えるとか、これを無駄だと思ふ人はいませんよね。これは、スポーツに例えると、基礎体力トレーニングなのです。学校での活躍というのは、試合みたいなどころ、つまりいろいろな状況が動いていくなかで力を発揮しなければいけないので、結構難しいところ、なかなか壁があるということなのです。

そこで、試合場面、学校場面では、コーチングが必要だということになります。トレーナー(通級担任)とコーチ(通常級担任)が連携し、密に情報をやり取りしながら、やつていこうという事です。「小集団ではできたので、学校でもそういう場面を作つてあげてもらえませんか。」これは、コーチングの手法、トレーナーとコーチの連携によつて実現する話になっていきます。コーチングでは、状況の整理やスキルの提示がポイントになります。我々が行動をスキルのレベルまで落とし込んで整理していなければ、「気合いでいけ。」

とか「頑張ればできる。」という指導にならざるを得ません。



社会性指導にはもう一つコミュニケーションという方法があります。有名なやり方はロールプレイングです。「今・ここ」での社会場面ではなく、想像してやってみようというやり方です。ソーシャルストーリーやSST絵カードは、シミュレーションです。ただ、問題になっているのは、「こんな時どうするの?」と聞いたら、素晴らしい答えを言えるけれど、学校では一度もそんな行動をとらないということです。SST博士みたいになってしまふ。ですから、これも体験したものだけがシミュレーションとして機能するという事です。学校でできたものを違う場面で

どうやったらできるか、小集団でできたものを学校でどうやったらできるか、たまたまできたものかどうか、どんな時にもできるようにするにはどうしたらいいか。常に体験とセツトされてシミュレーションが生きてくるのです。

トレーニングとコーチングとシミュレーション、子供の社会性を育てようという教育的働きは、この三つのどの要素が強いかということ整理できます。どうも、このどれかに偏っていると、うまくいかないようです。例えば、「そういう時はどうしたらいいの、よく考えなさい。」というお説教はシミュレーション学習です。お説教をたっぷりしたら社会性がぐんぐん育つたなんてこと見たことがないですよ。シミュレーション学習だけでも駄目だし、トレーニングとコーチングと、この三つのバランスを見ながら育てていくといいわけです。ここまでいくと、応用が自由自在です。

三、インクルーシブ教育の

時代に向けて

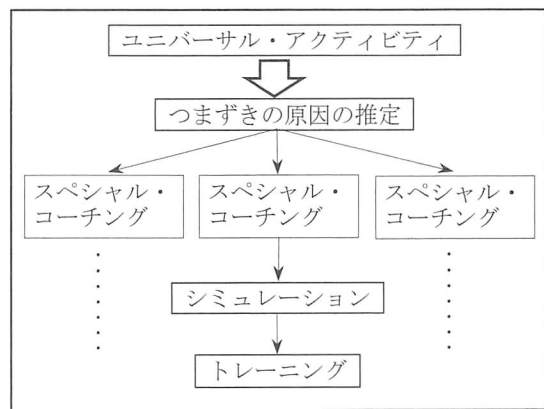
今求められているのは、これまで作り上げられてきた社会性指導という原理が、通常学級に入っていく形で実現するかという問題です。そもそもクラス全体、どの子だって社会性という問題は課題に

なっているわけだから、クラス全体で社会性を育てる方法を作っていくけないかという話です。

例えば、遅刻や早すぎる登校時刻などを修正するための「登校グッドゾーン」というユニバーサル・アクティビティでは、黒板に時間のメモリーを書いておき、登校したところで自分の名前を記入していきます。「この時間に来られるといいね。」というグッドゾーンがあつて、みんなで力を合わせてこれを実現しよう、まずは全体でそんな意識を作っていく。そして、これでうまくいかない時には、本人の問題を明確にし、通学路のポイントの経過時間を決めるなどの補助的な指導として、スペシャルコーチングをしていきます。さらに、時間感覚を育てていくような、これまでSSTという形でやってきたトレーニングを特化して行います。

授業についていけない子には、個別的な配慮をします。それは、その子だけ違うことをやるのではなくて、授業に戻すためにやるのです。ところが、この子を含むつもりで授業が組み立てられてなかったら、もう一回はじかれてしまうだけです。つまり、全体に対する授業がユニバーサルデザイン化という意識のもとで作られて、初めて特別支援教育の個別的な配

慮が生きてくるという、当たり前前の順序があるのです。通常学級の担任の先生方が、どの子にも社会性を育てようという意識を皆で応援して、その中で漏れ落ちてくるような子がいた時に、通級できちつと拾う。そして、それを分けたままにせず、また戻して、成功体験、成就するという体験、しかも良かった楽しかったと思うような体験をしっかりと確保する。一般化という一つの手続きが、減っていくような形で、やっていけないかというのが一つの提案です。成功体験の確保というところから、成長を実感できるような、クラスの中で自分が成長しているという実感ができるという形ができてくる、いいなと思います。



発達障害の全ての子たちの悩みは、発達が滞っていることから起きている問題です。ですから、「あなたはあなたなりに、きちつと発達し続けているよ。」ということを実感させる、これ以上の癒しはないのです。発達障害に対するかわりとは、成長体験を実感させてあげられるということです。



第四十八回全国情緒障害教育
研究協議会 岩手大会案内
全情研事務局長 有澤直人

平成二十七年七月三十日(三十一日)の二日間、岩手県花巻市湯の杜ホテル志戸平において全情研岩手大会が開催されます。大会テーマは「岩手発・情緒障がい教育再考〜つなぐ、いかす・ささえる 岩手のニーズ教育〜」というものです。

今回の大会は、すべての教育現場にかかわりのある「ストレスマネジメント」に焦点を当てた記念講演、東日本大震災からの復興の中で培われた連携にかかわるシンポジウム、自閉症スペクトラムの支援だけでなく、愛着障害や授業のユニバーサルデザインをテーマにした分科会など、今まさに教育現場の課題となっている内容を網羅した大変充実したプログラムが用意されています。分科会の形態も、実践報告形式やシンポジウム形式など、テーマによって工夫がなされています。更に、記念コンサート、被災地見学など、震災にかかわる生の現状に触れることもできます。明日からの実践に役立つ情報が得られること間違いのない大会です。ぜひ大勢の参加を期待しています。

平成二十七年度

設置校部夏季集中研修会
練馬区立豊玉南小学校 坂井英子

* 期日

八月六日(木)〜七日(金)

* 会場

江東区立豊洲西小学校

* テーマ

「これからの情緒障害教育のあり方」

* 内容

【八月六日(木)】

◇ 講演会

「通級指導学級に求められている今日的課題」
都立江東特別支援学校高等部

太田英樹先生

【八月七日(金)】

◇ グループ討議

◇ 講演会

「発達障害と二次障害の理解〜その対応とPTSDについて」
東京未来大学こども心理学部

藤本昌樹先生

* 情緒障害学級担任向けの研修会です。参加申し込みが必要ですが、人数に限りがあります。担任数の増加により、今年度からスリッパの用意はありません。各自、履きものをご持参の上、ご参加ください。詳しくは、各学級あてに案内を出しますので、ご覧ください。

平成27年度 新設・閉鎖学級一覧

市区町村名	学校名	学級名	固定・通級	市区町村名	学校名	学級名	固定・通級
新宿区	四谷第六小学校	まなびの教室	拠点	葛飾区	川端小学校	たんぼぼ学級	通級
新宿区	鶴巻小学校	まなびの教室	拠点	葛飾区	北野小学校	うめのみ学級	通級
台東区	石浜小学校	あおぼ学級	通級	江戸川区	東葛西小学校	はなみずき学級	通級
江東区	豊洲西小学校	ひまわり教室	通級	八王子市	梶田小学校	くぬぎ	通級
江東区	深川第六中学校	通級学級	閉級	八王子市	元木小学校	すまいる学級	通級
大田区	多摩川小学校	サポートルーム	拠点	八王子市	四谷中学校	ステップ学級	通級
大田区	調布大塚小学校	サポートルーム	拠点	調布市	飛田給小学校	ゆずりは学級	通級
大田区	中富小学校	サポートルーム	拠点	羽村市	松林小学校	まつのご学級	固定
大田区	大森第十中学校	通級学級	通級	羽村市	武蔵野小学校	むさしの学級	閉級
世田谷区	烏山小学校	つばき学級	通級	日野市	日野第三中学校	8組	固定
世田谷区	玉川小学校	こすもす学級	通級	稲城市	第一中学校	6組	閉級
世田谷区	駒沢中学校	あじさい学級	通級	瑞穂町	瑞穂第三小学校	さくら学級	通級
中野区	本郷小学校	ほんごう学級	通級	奥多摩町	氷川小学校	あおぞら	拠点
北区	西浮間小学校	にしうき	拠点	奥多摩町	古里小学校	あおぞら	拠点
北区	王子第五小学校	おうご	拠点	奥多摩町	古里中学校	通級学級	閉級
足立区	鹿浜五色桜小学校	鹿浜五色桜	通級	※定期総会での資料をもとに一覧を作成しています。訂正などありましたら、庶務事務分担の学級・理事名簿担当学級にご連絡ください。			
足立区	上沼田小学校	上沼田	閉級				

平成二十七年
定期総会を終えて

江戸川区立鹿骨東小学校 大沢 一郎

四月二十一日(火)に平成二十七年の都情研定期総会を行いました。この会において、狛江市立狛江第三小学校長渡辺秀貴先生が、今年度の新会長に承認されました。また、昨年度の事業報告・決算報告、今年度の事業計画・予算案が了承されました。

記念講演は、明星大学教授、小貫悟先生より、「通級担任の行う通常の学級の具体的支援法」という演題でご講演をいただきました。

ソーシャルスキルを身に付けるためには成功体験の積み重ねが重要であること、社会性を育てるにはコーチング・シミュレーション・トレーニングの3つをバランスよく行うこと、クラス全体のユニバーサルデザイン化を考えることなどを具体的な実践を基にお話しくれました。通級担任が在籍学級に今すぐ伝えていくべき具体的な支援方法をうかがうことができました。

都の第三次計画の実施が本格化し、都情研のあり方について真剣に考えていかなければならない状況です。各研修会をより充実させて対応していきたいと考えます。

平成26年度 決算報告

(単位:円)

1	収入	3,549,263
2	支出	1,889,616
3	差引残高	1,659,647

(収入内訳)

款項	項目	予算額	決算額
1	1 会費	1,479,330	1,450,530
2	1 繰越金	1,798,369	1,798,369
3	1 助成費	276,387	300,000
5	1 雑収入	328	364
合計		3,554,414	3,549,263

(支出内訳)

款項	項目	予算額	決算額	残額	
1	運営費	270,000	234,628	35,372	
	1 事務費	267,900	234,628	33,272	事務用品、送料他
	2 会議費	2,100	0	2,100	総会、役員会
2	事業費	1,865,000	1,305,643	559,357	
	1 調査・対策費	35,000	34,896	104	要望書、調査、研究会他
	2 広報費	350,000	132,966	217,034	会報印刷費
	3 設置校費	410,000	410,000	0	分科会報告、全情研分担金
	4 特別研究費	350,000	57,021	292,979	研修会、会場費他
5	研究会費	720,000	670,760	49,240	講師謝礼他
	特別研究部	270,000	257,873	12,127	定期総会講演他
	設置校部	450,000	412,887	37,113	分科会、講演会、担任会、夏季研修会
3	予備費	1,419,414	349,345	1,070,069	東京自閉症センター年会費、全情研参加費、情緒障害学級名簿
合計		3,554,414	1,889,616	1,664,798	

平成27年3月31日

東京都立学校情緒障害教育研究会 会長 大石 京子 印
 " 副会長(会計) 齋藤 実 印
 " 会計 及川 貴史 印

平成27年3月31日

監査の結果、正確であることを認めます。
 東京都立学校情緒障害教育研究会 監事 小川 深雪 印
 竹淵 正人 印

平成27年度 予算

(単位:円)

1	収入	3,410,541
2	支出	3,410,541
3	差引残高	0

(収入内訳)

款項	項目	予算額	摘要
1	1 会費	1,450,530	各区市長村分担金(1校900円)
2	1 繰越金	1,659,647	平成26年度より繰越
3	1 助成費	300,000	東京都教育研究普及事業の研究推進団体としての助成費
4	1 雑収入	364	利息、前年度繰入金
合計		3,410,541	

(支出内訳)

款項	項目	予算額	
1	運営費	410,000	
	1 事務費	407,900	事務用品、総会資料、名簿作成ソフトP.C、送料他
2	会議費	2,100	総会、役員会
2	事業費	1,925,000	
	1 調査・対策費	35,000	要望書、調査、研究会他
	2 広報費	290,000	会報印刷費
	3 設置校費	500,000	分科会報告、全情研分担金
	4 特別研究費	350,000	研修会、会場費他
5	研究会費	750,000	講師謝礼他
	特別研究部	270,000	定期総会講演他
	設置校部	480,000	分科会、講演会、担任会、夏季研修会
3	予備費	1,075,541	東京自閉症センター年会費等、全情研資料代
合計		3,410,541	

編集後記

広報に関するご意見、ご感想がありましたらお寄せください。

☎042-642-4201

八王子市立由井第一小学校

編集・発行 都情研広報部

印刷 ㈱ワールドミーティング